

【ご案内】

第15回 遺伝カウンセラーのための実践集中講座 ～遺伝性腫瘍診療現場の即戦力を目指して～

国立病院機構四国がんセンター主催「第15回遺伝カウンセラーのための実践集中講座～遺伝性腫瘍診療現場の即戦力を目指して～」を下記の予定で開催致します。この講座は、主に遺伝カウンセラーコースの学生の方や現在勉学中の認定遺伝カウンセラーの方を対象に、遺伝性腫瘍の診療を行う際の遺伝性腫瘍のより正確な知識の習得、遺伝性腫瘍での遺伝カウンセリング技術の向上を目指すものです。遺伝性腫瘍の診療でより高いレベルを目指される方には是非お集まりいただきたいと思っております。

国立病院機構 四国がんセンター
がん診断・治療開発部長 大住 省三

主催：国立病院機構 四国がんセンター
後援：日本遺伝性腫瘍学会

- 日時：2023年2月13日（月）13時～2月19日（日）17時
※新型コロナウイルス感染症の状況により、下記の依頼または開催方法の変更を行う場合があります。
 - ・事前の新型コロナウイルス PCR 検査の受検依頼
 - ・10-16時に時間短縮しフルオンラインに変更※フルオンラインへの変更決定案内は、受講者決定後の1月16日（月）の予定です
- 場所：国立病院機構 四国がんセンター（〒791-0280 愛媛県松山市南梅本町甲160番）
- 対象要件
 - ①遺伝カウンセラー養成課程の大学院生または修了生
 - ②認定遺伝カウンセラー
 - ③その他（上記以外で遺伝性腫瘍診療の関連業務に従事または従事予定）
- 修了要件
 - ①適宜の課題が提出できること（申請時、事前/事後に課題提出あり）
 - ②適宜の課題が合格基準に達していること
- 内容：別紙参照（資料1、資料2）
- 定員：8名 ※応募多数の場合、対象要件①を優先とし、現況レポートを基に選考します
- 受講費：学生2,000円 社会人20,000円
- 宿泊
 - 1) 施設
希望者には、病院敷地内の宿泊施設「向日葵」をこちらで手配いたします。

研修申込フォームに、宿泊施設の利用の有無をご入力ください。

※向日葵 HP : <https://shikoku-cc.hosp.go.jp/hospital/about/facility/himawari/>

2) 宿泊費 (6泊7日)

学生 1,000 円 社会人 15,840 円

3) その他

来場には原則公共交通機関をご利用ください。

外部の宿泊施設を利用の場合、ご自身での手配をお願いいたします。

※伊予鉄道横河原線沿線が便利です。

9. 昼食

希望者には、平日分のみ昼食 (4日分/1,560円/自己負担) をこちらで手配いたします。

研修申込フォームに、昼食希望の有無をご入力ください。

※院内にコンビニや食堂がありますが、研修スケジュールが過密なため、事前申込がお勧めです。

10. 研修申込

1) 研修申込フォーム入力

〆切: 11月28日(月) 12時

以下の URL または QR コードから研修申込フォームにアクセスの上ご入力ください。

※必ず添付可能なメールアドレスをご登録ください。

【申込 URL】 <https://forms.gle/98EaiLYwmHoyrFoB6>



2) 現況レポート提出 (資料 1-2)

資料 1 『現況レポート作成』 項目についてレポートを作成し、メール添付 (PDF) または郵送により提出してください。

〆切: 11月28日(月) 12時

11. 個人情報

受講に際する個人情報 (氏名・メールアドレス・所属・立場等) は企画側および研修生間で共有させていただきます。研修以外の目的で使用することはありません。

12. 受講決定通知等

受講可否は 2022 年 12 月 12 日 (月) 12 時までに、メールでお知らせいたします。

受講決定者には、振込方法等の連絡事項をメールでお知らせいたします。

資料 3にある事前課題を期限内に提出してください。

14. 問合せおよび現況レポート提出先 四国がんセンター (遺伝性がん診療科)

TEL : 089-999-1111 (代表)

E-mail : okamura.miki.et@mail.hosp.go.jp

※ 件名「第 15 回遺伝講座」と表記してください

1. 講座概要

1) 講師

田村智英子 (FMC 東京クリニック／順天堂大学医学部附属順天堂医院 遺伝相談外来 遺伝カウンセラー)

松田 圭子 (地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 遺伝カウンセラー)

金子 景香 (がん研有明病院 臨床遺伝医療部 遺伝カウンセラー)

その他 (四国がんセンター 遺伝カウンセラー、医師、看護師等)

2) カリキュラム (予定)

①がん診療の全般【講義】

- ・腫瘍学、疫学の基礎
- ・乳がん、大腸がん、婦人科がん等の臨床 (診断と治療の実際)

②遺伝性腫瘍、遺伝医学【講義/演習】

- ・基本知識と臨床応用
遺伝性乳がん卵巣がん、リンチ症候群、FAP を中心に
- ・家族歴聴取、家系図に基づくリスク評価
- ・遺伝学的検査 (マルチ遺伝子パネル検査を含む) と病的意義の解釈

③カウンセリング理論と臨床応用【講義/演習】

- ・情報提供技術
- ・心理援助理論
- ・健康行動理論
- ・グリーフカウンセリング

④がん患者・家族の支援体制【情報提供】

- ・がん相談支援センター概要・社会資源情報
- ・臨床心理士、看護師、医療ソーシャルワーカー等の他職種との連携

2. 現況レポート作成

以下の項目に沿って、遺伝性腫瘍に関する現況についてレポート作成してください

※レポート右上に所属・氏名を明記してください

- ①あなたがこれまでに遺伝性腫瘍について学んだこと
- ②あなたが遺伝性腫瘍に関する実践でできること
- ③あなたが遺伝性腫瘍の臨床において大切だと思うこと
- ④あなたがこのセミナーで学び、できるようになりたいこと

またそのことについて現時点での到達度を%でお示してください。

※研修終了時、同じ内容の到達度自己評価を行い研修評価の指標にさせていただきます。

例) 研修前：家系情報から適切なリスク評価ができる。(現時点到達度 45%)

研修後：家系情報から適切なリスク評価ができる。(現時点到達度 65%)

参加者の声

本講座は2012年より開催しており、これまでに延べ133名にご参加いただきました。参加された皆さんの感想の中から一部抜粋して、紹介します。

- ◇ 今回はロールプレイでたくさん反省が残ったので、もう一度やるチャンスがあれば良いと思いました。でも、細かなフィードバックを自分のロールプレイにもらえたり、クライアントは本当は何を思ってその言葉を出しているのか、それに対してどうするのかを考えたり、とても勉強になりました。
- ◇ 先生や他の受講生のロールプレイを見ることで、良いところを真似したりできるので、みんながロールプレイを練習できるのはとても勉強になりました
- ◇ 非常に有益だったのは、家系図をたくさん提示いただき、どのような疾患をどの程度疑うべきなのかの実際のディスカッションです。第一に疑う遺伝性腫瘍だけでなく、その他に鑑別すべき遺伝性腫瘍がないかどうかという観点をもつことが、遺伝カウンセラーとしての存在意義だということを中心に刻みました。
- ◇ 遺伝カウンセラーコース在籍時には、“遺伝性”腫瘍に focus して学習していたが、一般的ながんがどのように診断され、治療されていくのかという、がんの総論を今回改めて勉強することが出来たので、遺伝性腫瘍と一般的ながんの共通点・相違点が自分の中でクリアになった。
- ◇ 田村智英子先生の心理援助理論の講義は、認定遺伝カウンセラーがどのようなことを心がけて実践しているのかということがわかり大変勉強になりました。もっともっとお話が聴きたかったです。
- ◇ 集中講座に参加しなければ、会うことのできなかつた仲間と出会えた。遺伝カウンセラーやその卵だけでなく、他職種の参加者がいたのも良かったと思う。
- ◇ まだ遺伝カウンセリングについて学び始めのときに、講座に参加して有意な時間を過ごすことができるのかと不安を感じながら参加したが、講座に参加したことで医療従事者としての自分の中の価値観や考え方を変えることができ、この講座が私にとっての Teachable Moment となった。
- ◇ 医師の先生方、看護師の方、患者・家族支援センターの方、心理士の方など、様々な職種の方からお話を聞くことができ、遺伝性腫瘍の診療についてこれまでよりも広い視野で捉えることができるようになりました。自分にはない視点をもった先生方から聞くお話は、どれも非常に興味深いものでした。
- ◇ 四国がんセンターでの一週間の集中講座を終え、愛媛から戻り、迎えた翌日月曜日の朝は、とても清々しい朝でした。身体的にはとても疲れているはずでしたが、病院へ向かう道すがら、あの点はこういうふうに改善してみよう、新たにこういうことに取り組んでみよう、とさまざまな考えが浮かんでいました。

以上